Yul 民 連携マガジン 官

日南日

第10号

May 2012

部心四种开架斗件

及の一段人在一座人本之法

唇。相本大嗣人法

#834

朝衛衛

る

🌽 三重大学

社会連携研究センター

忍現術代 3



三重大学人文学部文化学科 日本地域研究 日本中世史・信仰史

川上そうですね。

当然で

いますね。

史学は実証的でなく

伝承

にこんなこと(忍者)を大

学も変わらなければならな 興味の変化にあわせて、 す。こういう社会や学生の に非常に興味があるようで

に言われるのですが、 連携についていろいろな方

本当

「忍術学」研究が始まります。 大学の役割について、三重大学人文学部の山田雄司教授と伊 に語っていただきました。 賀流忍者博物館名誉館長を務める川上仁一特任教授のお二人 三重大学と上野商工会議所・伊賀市が連携し、今年度より

現代に忍術学を活かす試みと

04

三重大学社会連携特任教授

川上 仁一

史実と伝承

伊賀流忍者博物館 名誉館長

最近は、三重大との

前編

思うわけです。 学が研究するのだろうかと

11

出 卫 山田 私はこれまで怨霊の 言われました。 こんなことをやるんだ」と 研究をしてきましたが、 ろいろな人に「君はなんで いですからね。でも今年開

なるほど。

日本史の本流ではな

教授

山田 雄司

講している「怨霊」の授業

や怪異、不思議なことなど、 本史の細かな部分より怨霊 人の暮らしと関連した事柄

学生にとっては、日 270人受講してい

しますが

書史料だけでは語られてい 山田 軍記物の中には、文 なっていきそうな感じも 学とは少し違った分野に てきた忍者研究は、歴史 そうすると、伝承で伝わっ 実としては認められない はあくまで伝承であり、 重視されてきました。 までずっと史料や文献が てはいけないとして、これ

忍者史料の数々

ういう類のものが、 んわかってきました。 が非常に難しいということ ないわけですからね。そこ んてすべて作り物かもしれ す。極論を言えば、 かったということがありま があまりいらっしゃらな でそういう話のできる先生 ないということで、これま 川上 伝承はあまり重視し 私も後になってだんだ 私は由緒書きとかそ 伝承な 誰が、 ました。『萬川集海』をは伊賀流忍者博物館で開催し 値ある史料が多く入ってい じめとした有名なものや価 「忍秘展」という展示会を 忍術の史料がたくさんあり まして、その史料を集めて それともう一つ、

てきます。

崇徳院の研究をしてきたの

いるのです。 くさんいて、

とか、時代の系列から見て 的な事柄を掘り下げていく

出

なぜそういうふうになって

どういう意図で、

11

つ作ら

いていろいろ研究してきまれてきたのかという点につ

誰が

乱で負けて讃岐に流された

ね。私はむしろ捨てられた が非常に大きいわけですよ

例えば、私は保元の

れまでに調べている人がた

よくわかって しかし、歴史

を、

のないものについては、こ

伝承の部分など実体 そうですか(笑)。

が史料を残す、

公的な部分

出

と思いました(笑)。

いうのはだいたい国家の側

らないと思います。

歴史と

いかと思って、「あ、

しめた」

その意図を探らなければな 改変されたならされたで、 はないかと思っています。

ゃ

っていただけるのではな

究をそういう方面からも 違うタイプの方で、忍者研 研究の先生方とはちょっと すべて排除してしまったの 分を信憑性に欠けるとして しかし、そういう部

研究をされていると知

オーソドックスな歴史

ています。 しゃる。

川上 ここ(沖森邸)には

私はそこに感動し

私も山田先生が怨霊の

しいという姿勢でいらっなくて、むしろ研究してほ

それは少し違うので

藤田西湖という人が収集したまではませいと、最後の忍者』としてつて、最後の忍者』として すね、 伝』です。これは面白いでこれは服部半蔵本の『忍秘 川上(史料を手に取り た藤田文庫があります。 時々忍者の本にも出 もう1点、これ



私は非常に興味を持った次 のではと思います。それで、 ありがとうございま

今まで研究してきたものと 隠された側ですから、 く国家によって否定され、

私が

うのです。

は否定する。

忍者もおそら

要で、そうなると歴史好き 論ずることがこれからは必 きたのかという、背景から

の素人ではもう難しいと思

たものを勝利した側、 くわけです。そこで語られ の外でいろいろ語られてい はあって、その部分が歴史 ですが、負けた側にも理屈

国家

第です。

結構つながるところがある

んでいただきたいところ 川上 それはぜひ取り組

お断りする」とい とかいう方面からの要請は 分なのだから、研究や学術 者としての修行や体験をさ れてきて、「もうそれで十 川上先生は今まで忍

らと思います。

かにしていくことができた ら作成されてきたかを明ら ういうものを参考にしなが どういう意図によって、 したので、忍術書が、

05

出 こういうことをやって その中の奪口の忍(間諜 考え方のところですね。 川上ああ、なるほど。 興味がありますね。 この心構えのところに 書かれています。 内容はかなり具体的に というものがあって、 の術に該当するもので、 ているものです。忍び の忍術) についてまとめ は楠流には六つの忍び 心の持ち方とか、 なるほど。私は

いですね。 通の武術伝書の形態になっ 家の忍術ですね。それが普 流となっていますが、武田 術の巻物です。伊賀流甲賀 忍術を伝えていたことに ているのです。 なっています。 すよ。この史料は女の人が 松代藩の忍

武術的になっているので、 えていました。中身が少し 家は、幕末までこの術を伝 ますね。これを伝えていた ろいろな術技を網羅してい 作ったのだと思います。 容を足したり引 偽の程は定かではないけれ のであることは間違いない おそらくそういう時代のも State of the state 甲陽軍鑑などから内 いたりして E Salar

はいけないとか、

面白

忍者修行

通宝を遠く離れた所からそ にずっとついていったので んでした。そこからその人 んなことは気にしていませ ますが、幼い頃ですからそ ていた人なのだろうと思い 考えればどういう仕事をし 思った記憶があります。 るなんて)すごいなあ」と のを見て当てることができ です。「(遠くから小さなも の小さな穴に打ち通すわけ 釘を打ち付けて、昔の寛永 あります。その人が、壁に んと出会って話した記憶が 雲水の格好をしたおじいさ が、6歳ぐらいのときに、 確には覚えていないのです 川上 最初のきっかけは明 されてきたのでしょうか。 形で忍術を学ばれ、修行を 川上先生はどういう

川上 出 歩き方や忍びこむ方 なるほど。

開錠の方法などいろい

出

ほう。

こういうものは、

ことを学んでいたわけで を舐めて味をみたり、 る方法も教わりました。 えていくのです。硝石を作 焼する時の火薬の割合を変 場合、爆発する場合と、燃 だったら捕まってしまいま 初は遊びの中でいろいろな 術も学びました。まあ、 を教えてもらいました。武 ら成分を抽出する方法など なところがありましたから すが、当時はまだい 火薬の作り方ですね。今 ろを習いました。それから 火をつけて明りにする 最

まざまな経験をされたので 山田 忍者になるためにさ

私も同じことをやってい などが流行り出したのです。 映画が大変人気で、手裏剣 ました。『忍びの者』という 忍者ブームというのがあり 昭和30年代ぐら

> 術のほうも一緒に巻物に書 術を巻物にしてくれて、忍 そのときに今まで習った武 川上 19歳頃までですね。 は、何歳ぐらいまでですか 技術的なものを教わったの とを研究されたのですね。 山田 ご自身で歴史的なこ ことがほとんどでした。 から学んだのは、技術的な ました。ただ、私がその 自分でいろいろと調べ出し そこから甲賀、伊賀など、 うことがわかりました(笑)。 るのが「忍び」の技だとい 言われて、自分が学んでい が習っとるのは忍びや」と いてくれました。 したから、大人から「お前

出 のですか。 免許皆伝のようなも

出 というようなことです。 ですね。あとは自分でやれ 皆伝みたいなものがあるの は言わないのですが、一応、 川上 忍術では免許皆伝と なるほど。

だったのだと思います。 川上 それが一つの区切り

さまざまな忍者の

です。 たこととどうも合わないの 忍術自体が嘘くさく思えて とやってきました。ただ、 外にも他の流儀や武術を教 川上 自分の習った忍術以 こられたのですか。 きた(笑)。その嘘くさい えてもらったり、いろいろ ものをどのように活かして 山田 その後は、そうした イメージが、私が習ってき

ますよね。 好良いイメージになってい 部分があると感じてい は忍者には反社会的要素の と聞こえは悪いですが、私 が、自分のイメージと合致 出てくる忍者のイメージ たことはなくて、 た。でも、一方ではそういっ しないのです。泥棒という 映画やテレビや本に もっと格 まし

品によって描かれ方が全然 山田 ええ。いろいろな作

> 違っていますね。私はプロ ろいろなことやる、 あいう忍者のスタイルでい レス好きだったので、 ト・カブキとか、 むしろ ザ・

思っていましたし、忍術と 武術は侍がやるものだと 卫上 忍者はかつて軍の中で特務 武術は忍者に必要でした。 ただ、兵法の一種としての 生から言われていました。 武術は別だということを先 は最初からなかったです。 武術としてのイメージから の仕事をしていたと聞いて 入っていますね。 いました。 私は武術のイメージ

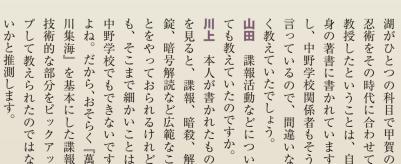
出

そうなんですか。

山田 について教えていたのです たが、そこでもやはり武術 た」とおっしゃっていまし 陸軍中野学校で教えてい 先ほど、「最後の忍 われた藤田 西湖が

そうですね。 藤田西

> 技術的な部分をピックアッ よね。だから、おそらく『萬 中野学校でもできないです とをやっておられるけれど 錠、暗号解読など広範なこ を見ると、諜報、暗殺、解 川上 本人が書かれたもの ても教えていたのですか。 山田 諜報活動などについ く教えていたでしょう。 言っているので、間違いな 身の著書に書かれています 教授したということは、 川集海』を基本にした諜報 も、そこまで細かいことは し、中野学校関係者もそう 忍術をその時代に合わせて 湖がひとつの科目で甲賀の





忍術を伝える意義

ですが、 あろうという武術です。 その地域で、 特殊なものはありません。 者武術」と勘違いされるの として、です。皆さんは「忍 あくまで武術を教える場所 たのは退社してからですね。 すが、本格的に道場を始め いう人たちもやっていたで 日は門弟に教えていたので ていまして、 川上 何年か会社勤めをし 道場を始められたのですか。 川上先生はいつから 「忍者武術」という おそらくそう その間にも休

山田 は何でしょうか。 と思ったきっかけというの 忍術の道場をやろう

卫

そうですねえ…。

そうです。反社会的

のです。 川上 ということですか。 山田 自分がそれをやらな 単純に言えば、 的要素も結構多いわけで、 いえ、そうではない 忍術自体は反社会

人の秘密を

の背景にあるものを伝えた れよりも、学んだ武術やそ 今の世の中で必要とされな と思っているのですが…。 きることに利用できないか のではなくて、皆が活用で ではないはずです。私はそ 本当は皆に教えるべきもの 探ることは犯罪ではないか いのです。 いく必要はないのです。そ い技術であれば、伝わって れを諜報技術として教える れすれですよね。それは、 もしれないけれど、犯罪す

出 る精神というようなもので なるほど。そこにあ

されて世の中に蔓延して 忍術そのもののように誤解 などです。それと、武術が 然観や任務に対する考え方 ンとなるもの、宗教観、自 要素、要因に立ち入るので はなくて、そのバックボ

でしょう。 されています。 ではなく中国などでも紹介 持ってきました。日本だけ いろと記事に出ていたので

を求めているのではな

(笑)。 のをもう一度叩き込む』と ので、忍者の精神というも が非常にヤワになっている 男子とか、昨今の日本の男 か。草食系男子とか乙女系 取り入れることになったの の大学で忍術というものを す。『どうして現在、 ですが、非常に面白いで チャイナネットの記事なの 山田 そうですね。これは

川上 (笑)。

たいですね。 そこを明確に区分していき 忍術は忍術というように、 ものであり、武術は武術、 るので、武術と忍術は違う

出 学が始まったということ 川上先生のことがいろ 実は三重大学で忍術

外国のほうが大袈裟

日本 卫 민 出 される方はいますよね。 槍の時代でもないけれど、 す。どんなものにも無駄な 分というのはあるわけで はまったくないですけど 川上 そんな考えは、 も面白かったです。 中国人が見ているのがとて ものはない。今さら鎖鎌や も。ただ、忍術の使える部 か』というようなかたちで

山田 『日本は忍術にそれ ははは、大袈裟な

> えています。 術などを現代的に活用して 大きいもののごく一部にし 格闘的武術は、忍術という ないし、悪いことでもない 知っておくことは無駄でも わけです。そういうことを につく嘘というものもある るために嘘をつく、 ことがありますね。身を守 例えば、皆さんも嘘をつく 必ずあるということです。 いってはどうだろうかと考 か過ぎない。 人を誘導していく技 情報収集をし 効率的

(次号へ続く)

忍術にもそういった部分は を学ぶことに意義がある。

ええ。

その精神や文化なり



産学官連携を通し 二重大学の地域社会への貢献

|文部科学省「自立化促進プログラム(機能強化支援型)」を活用した取り組み

全国でもトップクラスの実績があります。 重要視し、特に地域の中小企業との共同研究数は た。これまでも企業や地域の行政機関との連携を として基本目標に据え、積極的に推進してきまし 三重大学では、産学官連携を社会貢献活動の柱

官連携活動の推進」を推進しています ログラム(機能強化支援型):特色ある優れた産学 システム整備事業 大学等産学官連携自立化促進プ すための取り組みの一つとして、「イノベ このような取り組みをさらに推進し、 ーション

09